



学年団を訪ねて

担任が動きやすい環境づくりで、 個性豊かな6学科をつなぐ

富山県立富山工業高校 2 学年団



学年団が直面した課題

- ◎広い視野で進路を選択させるための1・2年次の進路指導の充実と、希望進路実現に必要な基礎学力の向上を実現する取り組みの具体化が求められた。
- ◎各学科の教育方針を尊重しながら、学年団としての目標を達成することを目指した。

学校概要

「進取敢行・自他敬愛」を校訓に掲げる。6学科8クラスを擁する県内最大の県立高校。1916年の富山市立工業学校の開校から、2016年の創立100周年を経て、日本海側屈指のものづくり県を支える有為な人材を送り出している。部活動も盛んで、体育系17、文化系7、工学系6の全30の部が活動。ソフトテニス部や放送部、吹奏楽部、電子機械工学部を始め、多くの部が県大会、全国大会で輝かしい成績を残している。



設立 1916(大正5)年

形態 全日制・定時制/機械工学科、電子機械工学科、金属工学科、電気工学科、建築工学科、土木工学科/共学

生徒数 1学年約320人

2021年度進路実績(現役のみ) 国公立大は、富山大、長岡造形大、富山県立大などに7人が合格。私立大は、千葉工業大、東海大、金沢工業大などに延べ45人が合格。短大・専門学校などに進学40人。就職216人。

6学科の独自性を尊重しながら、 学年団としての方向性を打ち出す

2021年4月、富山県立富山工業高校1
学年主任の高橋一誠先生は、入学式で1年生
とその保護者にこう語りかけた。

「3年後、320人の生徒全員に、この学
校に来てよかったと言ってもらえるように、
様々な取り組みに挑戦していきます」

高橋先生が学年の重点課題に定めたのが、
自分の適性に合った進路を幅広い視野で選択
する力を育成することと、定期考査対策を軸
にした基礎学力の向上だった。

「全国に目を向けて進学先や就職先を選ぶ
ことができるよう、1・2年次の進路指導を
学年団でも充実させたいと考えました。また、
希望進路を実現するためには、どんな進路で
あっても基礎学力は欠かせません。目標を意
識させながら基礎学力を養うような取り組
みも、学年団で模索したいと考えました」

高橋先生が掲げる方針を学年会議で聞いた
機械工学科担任の和田雄也先生は、学年を一
丸にしたいという思いを感じ取ったという。

「本校の6学科には、確固たる教育方針が
ありますが、学年団としての教育方針も重要
です。様々な希望進路や学力を持つ生徒が
320人もいるからこそ、学年団の教師が目

線を合わせる必要があります。そのため、高
橋先生の思いと重点課題は、学年団の教師全
員が理解したと思います」

初めて担任を務めることになった富居拓
海先生は、「高橋先生の明確な発信によって、
自分の中から不安が消えた」と振り返る。

「最初の学年集会でも、高橋先生は生徒に
対して、重点課題に取り組み意気込みを話し
ていました。生徒と一緒に話を聞きながら、
担任としてするべきことが明確になったと感
じました。『自分も高橋先生と同じ気持ちで、
生徒に寄り添ってほしい』と思いました」

学年団でのコミュニケーションを 大切にし、共通理解を深める

学年主任として高橋先生が心がけたのは、
学年の主役である担任への支援だ。

「生徒と密に接する担任のやりがい、苦勞
は、私も十分理解しています。だからこそ、
担任の先生に常に敬意を払い、先生方が動き
やすいよう、風通しをよくしたいと思いまし
た。あるクラスで何かトラブルがあった時も、
まずは学年団で共有し、そのトラブルを学年
団の財産と考えるようにしました。そのよう
に、乗り越えたトラブルは次のチャンスの礎
だと考える学年団であれば、先生方はさらに



リーダーに聞く！ 5つのQ&A

Q どのようなチームを目指しましたか？

A 担任が主役の、風通しのよい学年団です。
担任が動きやすければ、おのずとチーム
はまとまると考えました。

Q リーダーとして心がけていることは？

A 担任の取り組みを尊重することを何よりも
心がけています。生徒一人ひとりの進路を
支援する苦勞は、本当に大きなものです。
「ありがとう」を言います」という気持ちを、
言葉にしてしっかりと伝えなければいけな
いと思っています。

Q 学年団としての「成功」は？

A 毎日楽しい雰囲気の仕事をしていること
です。一人ひとりが楽しく専門性を発揮す
れば、1足す1が3にも4にもなるはずで
す。

Q リーダーとして自覚する
長所は何ですか？

A やり遂げたいという思いを貫くことです。
冗談好きの明るい性格も、長所と言えるか
もしれません。

Q リーダーとして自覚する
短所は何ですか？

A 担任が困っているところを見ると、何とか
しなければと熱くなり過ぎることがありま
す。そんな時は、学年団の先生方のアドバ
イスで冷静になることができます。

動きやすくなると考えました」

高橋先生は、毎日の職員朝礼後に学年団のミーティングを実施し、意思疎通がスムーズになるよう努めた。初めて大規模校で勤務する電気工学科担任の鳥越明子先生は、その取り組みによって安心感を得たと語る。

『今日、生徒がこんなことを言っていたよ』などと、情報共有が頻繁に行われていますし、『以前、こんな生徒がいたけど、こんな風に成長していった』などと、ベテランの先生方が過去の事例をよく話してくれます。他の先生方の話を聞くことは安心につながり、心に余裕を持って生徒に接することができています。私も、生徒との間であったことは隠さず、学年団に共有しようと思っています」

基礎学力の向上のために、学年団は成績不振者向けの放課後学習会や、「マナトレ（＊1）」を活用した朝学習を実施しているが、そうした施策にクラス間での温度差なく取り組んでいるのも、学年団で意思疎通ができている証だ。電子機械工学科担任の東良典先生は次のように話す。

「勉強に自信があり、学び直しに気持ちが向かわない生徒には、『基礎は念入りに固めた方がよい』『自分のペースで学習し、時間が余れば資格試験の勉強をしよう』などと、高橋先生と2人で声をかけています。担任以外の教師からも声をかけられたことで、朝学

習の重要性を、生徒は理解してくれました」

学年団で足並みをそろえながら、それぞれのクラスの工夫も進んでいる。金属工学科担任の喜中忍先生は、朝学習の開始時間をほかのクラスよりも5分早く設定している。

「朝学習の機会を利用して、『5分前行動』を習慣化させようと思いました。毎朝5分前行動を心がけさせることで、生徒はほかの場面でも時間を意識できるようになりました」

「もつ一つ上」を目指す経験を 生徒に積ませるために

生徒が自分の適性に合った進路を幅広い視野で選択することができるようになるために、学年団が重視するのが面談だ。建築工学科の太田明博先生は、「1・2年次に自己理解を促すことが大切」と語る。

「専門高校であっても、中学生の時に漠然と進路を選択した生徒は少なくありませんから、生徒の今後の進路選択を支援するためには、一人ひとりがどんな興味・関心を持っているかを把握することが不可欠です。そこで、22年度から導入している『進路達成プログラム』（＊2）の診断結果を基に、面談を行っています。加えて、所属する専門科の学問をもっと好きになってもらうことも重要です。私のクラスであれば、設計やデザインのコ



2学年団では、富山工業高校の6学科それぞれの確固たる教育方針を尊重しつつ、学年団としての教育方針を軸に、足並みをそろえた指導も展開している。基礎学力向上のための朝学習にも、学年団が丸となって温度差なく取り組んでいる（写真）。

テストへの出場を勧めるなど、建築のやりがいや面白さに触れる機会を与えて、生徒が進路目標を持てるよう、支援しています」

電気工学科の島竹克大先生は、「生徒と新しい体験をともに楽しむことで、進路意識を醸成したい」と語る。

「23年度に、知的財産権の出願や権利に関する授業に挑戦してみたいと、管理職や学年主任に相談しています。知的財産は、科を超えていろいろな先生がかかわることができるようになるので、生徒の学びを広げるきっかけにもなるはずです。6学科をつなぐような取り組みに挑戦してみたいと思うようになったの

* 1 ベネッセのアセスメント「進路マップ」の1つで、義務教育範囲の学び直し専用プリント教材。

* 2 「自分の軸を持った進路選択」を体験させるベネッセの新コンセプト進路学習教材。



学年団を訪ねて



2学年担任
和田雄也 わだ・ゆうや
教職歴18年。同校に赴任して8年目。
機械工学科。



2学年担任
太田明博 おおた・あきひろ
教職歴18年。同校に赴任して5年目。
建築工学科。



2学年副主任
飯島貴英 いいじま・たかひで
教職歴28年。同校に赴任して9年目。
国語科。



2学年主任
高橋一誠 たかはし・かずまさ
教職歴14年。同校に赴任して11年目。
土木工学科。



2学年担任
富居拓海 ふごう・たくみ
教職歴3年。同校に赴任して2年目。
機械工学科。



2学年担任
島竹克大 しまたけ・かつひろ
教職歴6年。同校に赴任して2年目。
電気工学科。



2学年担任
喜中忍 きなか・しのぶ
教職歴15年。同校に赴任して8年目。
数学科。



2学年担任
東良典 あずま・よしのり
教職歴17年。同校に赴任して1年目。
電子機械工学科。

は、この学年団の風通しのよきのおかげです」
3学期を迎える2学年団を、「一丸となつて問題解決に取り組む集団になっている」と、2学年副主任の飯島貴英先生は話す。
「経験年数も在籍年数も多様な教師から成る学年団ですが、全員が互いを尊重しながら、時に悩みを打ち明けたり、愚痴をこぼしたりしながら、日々生徒に向き合っています。朝学習を始めとする様々な取り組みでクラス間格差がないこと、そして忙しい中でも、『年1回の進路ガイダンスを2回にしよう』と

いった前向きな提案が担任から上がることなど、各担任が力を発揮しやすいこの学年団だからできていることは少なくありません」
学年主任として残り1年余り、高橋先生は「生徒にもう1つ上の目標を持たせられる学年団を目指す」と展望を語る。
「1つ上を目指そうと決意し、行動する中でこそ、自分の道を切り開く力が生徒に育まれます。生徒に高い志を抱かせるためには、『自分はどうなりたい』という意志を生徒から引き出すことが重要です。しかし、先生方

は、朝、昼休み、放課後と、フルに時間を使って生徒と向き合っており、これ以上負担はかけられません。では、どうするか……。その難問に向き合っていくことが私の仕事です」
難問の答えはまだ見つかってはいないが、担任が力を発揮できる学年団なら乗り越えていけると高橋先生は考えている。
「学年主任よりも担任をやりたいと悩んだ時期もありましたが、今は、学年主任は担任の思いをくみ取り、担任に活躍してもらいための、やりがいのある仕事だと分かりました。担任の先生方の力を借りれば、きっとよい取り組みにたどり着けると思っています」

* 学年団 輝きのポイント *

- * 学年の主役は担任という考えの下、担任を学年団で支えるとともに、担任の新たな挑戦も尊重。
- * 学年団でのコミュニケーションを大切にすることで、教師間の意思疎通をスムーズなものとし、風通しのよい関係を構築した。